

茨城港日立港区の整備促進について

関東部会提出
説明担当 日立市

港湾は、経済のグローバル化が進展する中で、国内外に開かれた「海のゲートウェイ」として地域の重要な産業振興の拠点であり、その重要性がますます高まっている。

茨城港の日立港区は、重要港湾同士の統合により平成 20 年に誕生した北関東の海のゲートウェイであり、昭和 34 年に日立港として第 1 船が入港して以来、着実に港勢を拡大している。

とくに、本年 4 月にメルセデス・ベンツ日本（株）の新車整備センターの統合により、ベンツ車の国内唯一の輸入港となったことに加え、5 月には日産自動車（株）栃木工場の北米東海岸向け完成自動車の輸出港になり、完成自動車の取り扱いが大幅に増え、更なるモータープールの整備が求められているところである。

また、東京ガス（株）が、第 5 埠頭において、平成 27 年度の稼働を目標に LNG 基地の建設計画を進めており、栃木県真岡市までのパイプライン敷設計画と合わせると、北関東一円の地域経済の活性化及び産業の振興に大きく貢献するものと期待されている。

国においては、これら茨城港日立港区の完成自動車取扱港としての港勢拡大や LNG 基地建設計画の促進のために、港の静穏度を高める沖防波堤の早期整備及び港湾の規模を拡大する第 3 埠頭の早期事業化を図られるよう強く要望する。